

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北関東)	◎	－	－	－
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・値上げの影響が1番大きいですが、特段インバウンドの影響もなく、来客数は伸びている。
	○	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・世界情勢は混んとしているものの、インバウンドについては影響は最小限で、当地は世界各地からの来訪者でにぎわっている。一方、国内需要は今は卒業旅行を中心とした若者の来訪が順調だったが、ガソリン価格の高騰等の影響は、少なからず出てくる。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼も夜も動きが良かったので、前年同月と比べて5%の増取である。
	○	通信会社（総務担当）	販売量の動き	・例年3月は1年でも販売数が多い月だが、それに加え、今月で終了するサービスの利用者が多数来店しているため、やや良くなっている。
	○	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・悪天候でのクローズ日は前年と変わらないものの、来場者数は前年比108%、単価も前年比プラスの見込みとなっている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・全体的な話で、利用客の節約志向は以前よりも高まってきているが、店の経費も増えているため、経営が一段と厳しくなっている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・3月のお彼岸までは寒い日が多くあったが、今は例年の天候と比べて暖かくなり、花もいつもより早く咲いて、活気が出てきている。来月も値上がりが続く、米は値下がり傾向でも、財布のひもは緩まない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年を基準にした売上達成度で3か月前と比較すると、両月共に前年の売上を1割程度上回っており、ほぼ変わらない。中東情勢による影響は、2月末から3月初旬にかけて一時、観光客が微減したのみで、その後は前年を上回る販売量がある。ただし、欧米方面からの観光客は減っている。その空白を、卒業旅行とみられる国内の若年層の客が埋めてくれている。
	□	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・大型食品物産展など好調な分野も見受けられるものの、景況に大きな変化はない。商材単価は前年比約1割上昇し、依然として物価高であり、客は消費に慎重である。
	□	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・2～3月上旬にかけては堅調な売行きだったが、中東情勢が緊迫してから、日によって売上に苦戦する日も出てきている。新生活や新年度を迎えるタイミングの需要もあって、売上推移は一進一退である。ただし、日々の生活に影響のない高額品等の購買は、やや控えている様子も見受けられる。
	□	スーパー（経営企画）	来客数の動き	・物価高だが、賃金の改定で給料も増えているため、均衡している。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・行楽シーズンの影響により、土日祝日は観光、レジャー目的の利用客が一定数みられる。特に、今月中旬以降は春休み需要も重なり、週末を中心に人出はやや持ち直し傾向にある。一方で、平日は通勤通学以外の付加需要が弱く、買い回りやついで買いにつながる来客数の伸びは鈍い状況である。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数にほぼ変化がない。
	□	家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・エアコンは、気温変動や2027年問題を背景として好調な売行きを示す一方、その他の大型家電やパソコン等の動きが低迷傾向にある。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・この数か月、新車などの車両販売が横ばいで推移しており、整備部門の売上でカバーしている。
	□	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量、来客数、ムード、道路の往来状況等をもみても、余り目立った動きはなく、活発さもない。極めて落ち着いた普通の月である。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	単価の動き	・年度末で来客数は横ばいではあるものの、宴会、フリー客共に予算を抑える傾向が見受けられる。

□	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・送別会や年度替わりの宴会は毎年のことなので別として、通常営業は変わらない。ガソリン代の高騰等はあるが、今のところ影響はない。
□	一般レストラン [居酒屋] (経営者)	来客数の動き	・歓送迎会で、団体や少人数の宴会等は盛り上がっているものの、相変わらずフリー客の動きが鈍い。
□	その他飲食 [給食・レストラン] (総務)	単価の動き	・直近の食材単価は安定しているものの、高値が続いている。原油価格高騰の動きは、燃料費や配送費の上昇につながるため、収支確保の重しとなっている。現時点でも、収支が圧迫される状況が続いている。
□	都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・宿泊部門は、梅まつりや地元のサッカーチームがリーグ昇格した影響がある。料飲部門は、送別会や謝恩会等で高単価、高稼働で推移し、前年比125%となっている。
□	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・物価の変動で、客が動かなくなってきている。
□	旅行代理店 (営業担当)	来客数の動き	・石油価格や物価の上昇により、この先レジャー産業は痛手を被る。
□	通信会社 (社員)	単価の動き	・当サービスに対して客から割引の要望が増える一方、仕入原価は上昇しており、粗利益の減少は避けられない状況である。今後も顧客満足度を追求し、解約数以上の新規獲得に向けた努力を継続していく。
□	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・前年と比べて、降雪もなく温暖な日が多かったこともあり、来園者数が伸びている。
□	美容室 (経営者)	来客数の動き	・中東情勢の影響により、美容業界にもしわ寄せが来ている。影響が長引き、原料のナフサが供給不足になれば薬液の生産が止まるため、商材の入荷未定や価格上昇が危ぶまれる。
□	その他住宅 [住宅管理・リフォーム] (営業)	販売量の動き	・建築コストの高止まりが継続している部分もあり、契約を見送るケースが続いている。
▲	一般小売店 [青果] (店長)	販売量の動き	・施設等への納品先が多いが、料理を作る人の人手不足の影響により、食材が冷凍ものになっており、納品がかなり減っている。
▲	スーパー (総務担当)	販売量の動き	・中東の情勢による原油価格高騰の影響により、ガソリン価格が上がるなど、客の心理に大きな影響がある。3月後半に入り、売上が減少している。
▲	スーパー (商品部担当)	単価の動き	・来客数の落ち込みもあるが、更に5%程度、客単価が落ち込んでいる。値上げによる影響が大きく絡んでいるとみている。
▲	家電量販店 (店員)	販売量の動き	・前月は108%と伸びたが、今月は97%と前年実績を超えることができなかった。伸びの悪かった商材は、パソコン本体で90%である。また、原油価格の高騰の影響を受けて、消費マインドが冷えている。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・前年同月と比べると、ややマイナスになっている。
▲	乗用車販売店 (営業担当)	お客様の様子	・物価高に追い打ちをかけてガソリン価格が上昇し、購入意欲が低下している。
▲	住関連専門店 (仕入担当)	販売量の動き	・今月に入り、節約意識がより一層高まっている。ガソリン価格の乱高下も不安感を高めている上に、原油についてのネガティブな報道が多く、消費を後押しする明るい要素がない。
▲	その他専門店 (総務担当)	お客様の様子	・注文が少なく、単価がシビアになっている。
▲	旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・3か月前の12月は例年並みだったものの、今月は非常に売上が悪い。
▲	通信会社 (営業担当)	単価の動き	・中東情勢の影響から、ガソリン代はもちろん、あらゆる関連商材、物流コスト等の上昇の可能性が高まり、消費を抑える傾向にある。
▲	設計事務所 (所長)	それ以外	・原油価格高騰の影響が出てきている。
▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・物価高が一段と進行し、建築費や住宅ローン金利の上昇と悪い要因ばかりで、買い控えも増えている。

	▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・事務所関係の引き合いはほとんどないが、最近、店舗関係の問合せが若干増えてきている。飲食店か物販店の引き合いで、その他は、いまだ空き店舗が目立ち、撤収や閉業が続いている。	
	×	一般小売店〔家電〕 (経営者)	来客数の動き	・円安や物価高の影響により、客の動きは悪い。	
	×	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・年度末、期末の3月だが、販売数は増えてこない。例年なら決算時期で売上は増えるが、今年は悪くなっている。	
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・2月は悪かったが、従来なら3月は送別会等で動きがあるところ、今年は送別会もやらない傾向である。2月末で従業員が2人辞め、ドライバー不足で売上は落ちている。タクシーでは生活できないようである。バブル前は40人いたドライバーも、今では高齢者ばかりで13人に減少している。そのうち田舎ではタクシーがなくなるのではないかと感じている。	
	×	ゴルフ練習場 (経営者)	来客数の動き	・消費者が値上げに敏感になっている。	
企業 動向 関連  (北関東)	◎	—	—	—	
	○	一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・決算期ではあるが新規受注が幾つか決まり、久しぶりに社員の笑顔が増えている。	
	○	輸送用機械器具製造業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・取引先の様子だが、販売量に動きが少し出てきている。	
	□	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・相変わらず、取扱食材が高値安定となっており、消費者の購買意欲が低調である。	
	□	窯業・土石製品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・年度末が順調に迎えられそうである。	
	□	電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・3か月前と受注量は余り変わらないが、今後は中東情勢の影響が心配である。	
	□	輸送用機械器具製造業 (総務担当)	取引先の様子	・主要取引先の生産は計画どおりに進んでおり、大きな変化はない。	
	□	輸送業 (営業担当)	取引先の様子	・新生活を前に、年度替わりのタイミングで白物家電、新生活の寝具、インテリア用品等は現状、前年並みの物量を確保している。また、3月末の引っ越し便とともに車両不足が発生している。運賃も高くなり、人材確保等も厳しい状態が続いている。燃料価格の高騰、中東情勢で原油価格が上昇し、利益が薄くなっている。	
	□	金融業 (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・全体的に仕入価格の高騰等の価格転嫁ができていないため、今後は厳しくなることも予想される。	
	□	経営コンサルタント	取引先の様子	・中小、下請企業等の受注や売上等の業績面に大きな変化はない。	
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・人口が徐々に減っている地方のため、良くなることはない。いつも同じ動きになっている。	
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・地方の中小企業では、進まない価格転嫁や人件費増加により、相変わらず利益は少ない。	
		▲	出版・印刷・同 関連産業 (経営者)	取引先の様子	・協力会社から、燃料価格高騰を理由に値上げ要請が来ている。ガソリン価格が高騰して間もないのに、価格反映を急いでいる業者があることから、切羽詰まっている様子が伝わってくる。
		▲	化学工業 (管理担当)	取引先の様子	・仕入材料の値上げと入荷時期の不透明さで、やや悪くなっている。
	▲	一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・中東向け自動車生産の調整に伴い、減産を余儀なくされている。	
	▲	電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響によって、部品等にいろいろと欠品が出始めており、うまく回りそうにない。	
	▲	広告代理店 (営業担当)	取引先の様子	・飲食店の閉業が、今までにない件数で発生している。来客数はそれほど悪くない店でも、材料費、光熱費、人件費等の高騰から、もう営業できないと諦めている。	

	×	不動産業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・資材や燃料の価格高騰が急激に進んだため、契約済案件で受注額を引き上げられない分は、当社のコスト増加となり、利益を圧迫している。
雇用 関連	◎	—	—	—
(北関東)	○	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・春休みに入り、新年度に向け、卒業、新入学、新入社員等の動きが目立っており、衣、食、住に動きが出ている。食に関しては、やや落ち着いてきているが、生鮮食料品や鮮魚は結構伸びており、全体をけん引している。ガソリン価格については多少波があるものの、石油製品も幾らか落ち着くとみている。ただし、原油価格は中東情勢の影響もあるため、一進一退である。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・事務や製造業の募集は、業績好調による増員ではなく、退職者や求職者の欠員補充が多くなっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で連続して微増となっているものの、前年同月と同水準である。
	□	学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・求人状況をみても例年と変わらない。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	求職者数の動き	・求職者が少なく、派遣募集をしても人が集まらないため、やや悪くなっている。
	×	*	*	*